



有限会社酒牧製作所

革新の技術が生んだ漏水ゼロの両開き遮水扉 オンリーワンの性能を、広く世のために

50年培ってきた金属加工のノウハウとものづくりへの愛着

頑固なまでの職人魂が驚異の遮水性能を実現。

漏水ゼロ、操作性に優れた両開き遮水扉を災害の時代に問う。

「まさか」が「まさか」でなくなる時代、

大切なものを水から守り、暮らしとビジネスを継続していくために。



津波・集中豪雨等による建物への浸水を防ぐ 遮水扉と試験装置の開発

1. 取り組みの経緯

集中豪雨による出水や地震による津波、水害はいつ襲ってくるかわからない。だからこそ備えたい。建物の心臓であるポンプ室・機械室・電気設備室を守り、ビジネスを継続していくために、顧客のオーダーに応じて遮水設備を開発。独自の「セギリプレート方式」により実現した優れた遮水性を実証実験で検証しさらに高めるために、ぜひとも自社工場内に水圧実験設備が必要であった。

2. 実施内容

両開き遮水扉のついた試験水槽、架台、屋上プールからなる実験装置を設置。プールから水槽へ注水し、遮水扉からの漏水を確認する実験を行う。水槽に必要量を注水するための調整バルブ、水槽からプールへ水を戻すための水中ポンプも施設。バルブの調整により、水量・水圧などを変えながら、検証と修正を繰り返す。架台には試験時の確認や見学者のための手摺付きの階段を設けた。

3. 取り組みの成果

低水圧・低浸水時の遮水力が弱いという既存の両開き遮水扉の難点も克服。実験・改良を繰り返して完成度を高め、ほぼ完璧な遮水性を実現した。既存ドアにも後付け可能。設計施工一貫体制によりコストも低減。すでに徳島県内の警察、病院、発電所や球場の電気室・ポンプ室に納品済みだ。WEBにアップした実験の様子を見て見学希望や問い合わせも増えており、大きな手応えを得ている。

事業者から一言

比類なき技術、次は普及が課題!

突然発生する緊急事態に備えるために国をあげてBCP(事業継続計画)作成がすすめられています。特に災害時には、ビジネスや暮らしの継続性を担保することが何より重要。当社の遮水扉の比類なき性能で大切なものを水からしっかり守ってほしいから、防災強化型マンションへの提案なども考えています。



代表取締役
酒牧 繁氏



▲上がプール、下が遮水扉付き水槽、実験の様子は屋上から見学できる



▲遮水扉はハンドルひとつで女性でもスムーズに開閉



▲当社独自開発のセギリプレート方式により、遮水ゼロを実現

有限会社酒牧製作所

〒770-0873

徳島県徳島市東沖洲2丁目26番地10

Tel.088-664-6144 Fax.088-664-6145

- 代表取締役 酒牧 繁
- 設立年月日 平成元年1月10日
- 資本金 1,000万円
- 業種 金属製品製造業
- 従業員数 5名
- ホームページ <https://sakamakiseisakusyo.jp>